

平成26年度 夕張市社会福祉協議会

事業報告書

平成26年度は日本人3人の科学者がノーベル物理学賞を受賞するという明るいニュースがあった反面、理化学研究所の科学者のSTAP細胞論文が撤回されるという残念なニュースもありました。また、生活面では4月には消費税が5%から8%に増税、また北電の電気料金も値上げされ、ガソリン価格も不安定であるなど消費者にとっては厳しい年となりました。

夕張市関係では本市を舞台にした映画「幸福の黄色いハンカチ」で主演をされた俳優の高倉健さんの訃報がありました。臨時に開館した幸福の黄色いハンカチ広場には、訃報を聞いた多くの人々が訪れていました。

さて夕張市も財政破綻から8年が経過し、市のホームページ上の「夕張市の借金時計」によると、財政再生特例債の償還も既に約75億9千万円を償還しています。1時間あたり24万4359円減っていくとされていますが、未償還額はまだ約277億4千万円あります。（平成27年5月14日現在）。

償還の終わる平成38年度末までは、厳しい市民生活は引き続くこととなりますが、本会は住民自らが地域福祉を支え合うことを基本に市民協同の一助となるべく活動を継続してまいります。

平成26年度の事業概要ですが、「老人福祉会館」は福祉拠点であることから管理経営について引き続き指定管理を受託しました。

「ふれあいサロン」は関係地区協議会が主体となり、各々のアイデアにより運営を継続、「ふれあいサロン行政窓口業務」も市の単独補助を受け継続実施することで、地域住民の利便性確保に努めました。

ホームヘルプ事業は、介護保険制度に基づく訪問介護事業、居宅介護支援事業、障害者自立支援制度に基づく訪問介護サービス事業、地域活動支援センター事業、高齢者家事援助事業としての地域自立生活支援ホームヘルパー派遣事業の充実に努めました。

以下、主な事業を報告します。

記

1. 地域福祉活動の推進について

高齢化率が平成26年3月には47%を越える超高齢地域であることから、地域毎の実情を考慮しながら、高齢者を中心とした「地域福祉」の推進を図り、住民が支え合いながら、安心・安全に暮らしていけるまちづくりを目指して事業を展開しました。（参考：平成27年3月末高齢化率48.02%）

2. 住民参加によるネットワークづくりの強化について

「ふれあいサロン」は関係地区協議会の町内会が主体となり、町内会館等を活用して、各種相談窓口、お茶のみ会等を開催し、地域住民の憩い・情報提供の場を築いていますが、今後は財源の確保が課題になっていくと予想されます。

また「ふれあいサロン行政窓口業務」は市の単独補助を受け、地区協が中心となり週3回、午前開設し、リサイクル物品の回収、福祉関係書類の受付、進達、相談などを行い、分散する地域の利便性向上に努めました。

3. 在宅福祉サービスの強化について

高齢者で家事援助等を希望する方に実施している地域自立生活支援ホームヘルパー派遣事業、障害者自立支援制度に基づく居宅介護等支援事業並びに障害者地域活動支援センターを開設し、これらの事業は夕張市からの委託事業として実施するとともに、訪問介護事業、居宅介護支援事業を継続実施し在宅福祉サービスの強化に努めました。

事業実績の概要は次のとおりです。

(1) 地域自立生活支援ホームヘルパー派遣

延べ	10件	35回
----	-----	-----

(2) 障がい者自立支援事業

障がい者居宅介護支援	延べ	64件	484回
------------	----	-----	------

(3) 障がい者地域生活支援事業

移動支援	延べ	11件	15回
------	----	-----	-----

(4) 指定居宅介護支援事業「あさか」

居宅サービス計画（ケアプラン）の作成			494件
--------------------	--	--	------

(5) 介護保険事業

訪問介護	延べ	465件	2,643回
------	----	------	--------

(6) 障がい者自立支援事業

4. 人工透析患者の市外通院事業への支援について

通院移送業務は、夕張鉄道株式会社が運行管理業務行っておりますが、市からの補助金に係る申請、不足する財源の対応など患者さんの利便性確保と支援を継続しました。

5. 老人福社会館の管理経営について

老人福社会館は市内福祉活動の拠点、地域の高齢者が集う市内唯一の憩いの場であることから、引き続き指定管理を受託し、管理経営を行うこととしました。

人口の減少、高齢化の進行から、年間利用者は、21,279人となり前年よりは増加しました。利用者の増をめざし、各種講座を開いたほかボランティアの協力を得ながら喫茶はっぴいクロバーの営業を始めました。この喫茶は、利用者に大変喜ばれているところです。また、映画鑑賞会を実施しました。

会館の運営には市から一部助成が行われていますが、原油価格高騰等の影響等から今後の安定経営が難しい状況になってきています。

なお、学童、支援センター利用者及び高齢者が一体となった福祉活動の場としての運営を行っています。

具体的な事業の推進状況

1. 老人福祉活動の推進

- ・老人福祉月間行事として、「囲碁・将棋・麻雀大会」、「老人福祉大会」等の行事を実施しました。

2. 心身・精神障害者福祉活動（ノーマライゼーション）の推進

- ・社会福祉施設等との連携をとりました。
- ・小規模作業所への支援を行いました。

3. 在宅福祉サービス及びボランティア活動の推進

- ・各種サービスを次のとおり実施しました。
 - 配食サービス ～ 延べ36日の配食を実施しました。
 - 移送サービス ～ 延べ575件、380人の移送を実施しました。
- ・道社協ボランティア部会への参加

4. 地域福祉活動の推進

- ・各在宅福祉サービス推進委員会の活動実施状況

- 昼食会等の食事会の実施
- 福祉訪問の実施
- 地域行事の参加
- 研修旅行の実施
- 配食サービスの実施

- ・「福祉ふれあい広場」(ゆうばり社協福祉文化フェスティバル)の開催

第12回目となる「ふれあい広場」は、9月13日老人福祉会館屋外駐車場を中心に、「出会い・ふれあい・支え合い」をテーマとして、屋外では屋台が軒を列ね、ステージでは「ピエロのリンリンショー」、老人福祉会館サークルの皆さんの大正琴・日舞・フラダンスの発表や着物の着付けショー、夕張太鼓保存会「竜花」の演奏が行われました。晴天に恵まれたことから多くの市民が参加、盛況のもとに終了しました。

- ・救急医療情報キット「命のバトン」の継続配布をしました。

5. 相談活動の推進

- ・地域巡回相談を、心配ごと相談と人権擁護委員及び行政相談の合同相談会として実施しました。

6. 低所得者福祉活動の推進

- ・生活困窮者一時貸付金制度は、原資不足から貸付を休止しています。道社協の委託事業である生活福祉資金貸付は、例年どおり貸付事業を行いました。

7. 大会及び研究協議会活動の推進

- ・管内社会福祉協議会、空知地区推進会議等が主催する各種研修会、研究協議へ参加し研鑽に努めました。
- ・夕張市民生児童委員協議会、夕張市老人クラブ連合会等の各種会議に参加し情報交換に努めました。

8. 広報活動の推進

9. 福祉団体活動の推進

10. 道並びに近隣市町村社協との連携強化

11. 共同募金運動並びに歳末たすけあい運動への協力

上記4項目については、例年どおりの活動を展開しました。

12. 会務の運営

理 事 会	4回開催
評 議 員 会	4回開催
地区協連絡会議	1回開催
定 期 監 査	4回実施

上記のとおり各種会議の開催及び定期監査の実施をしました。